漁港は
魚の保育園
http：//www.gyokou.or.jp/

漁港漁場月報

令和4年7月15日　発行
毎月　1回15日発行
編集兼発行人　公益社団法人　全国漁港漁場協会
橋本　牧
東京都港区赤坂1－9－13三会堂ビル8階
電話　東京（5114）9981
定価　1部　70円
（会員の購読料は会費の中に含む）

新体制がスタート

水産庁漁港漁場整備部

このほど実施された水産庁の人事異動で、漁港漁場整備部の田中郁也計画課長が漁港漁場整備部長に就任した。横山純整備課長は計画課長、中村隆水産施設災害対策室長は整備課長に就いた。水産施設災害対策室長は中村克彦上席漁港漁場専門官が務める。矢花渉史前部長は退職し、（株）農林漁業成長産業化支援機構取締役専務に就いた。

新旧部長が水産庁記者クラブで6月29日に会見し、田中新部長は3月に決定した新たな漁港漁場整備長期計画の実践に注力していく方針を表明。「今回の長期計画には現場との意見交換の結果が盛り込まれており、やるべきことが具体的に明記されている。確実に実践できるように努めていく」と強調した。

前部長の矢花氏は「田中部長は長期計画だけでなく水産庁全体の政策にも通じている。他省庁との連携の経験も生かし、海業などのすそ野の広い事業に取り組んでほしい」と語った。

第9回定時総会を開催

漁港漁場新技術研究会

（一社）漁港漁場新技術研究会（橋本牧会長）は第9回定時総会を6月30日午後2時から東京都千代田区のエッサム神田ホール2号館で開催し、全ての議案を原案通り承認した。

橋本会長は冒頭挨拶で「新しい漁港漁場整備長期計画が今年の3月に閣議決定され、今後は計画に盛り込まれた施策を現場や浜に展開していくという段階になる。我々も技術の開発であるとか、また、その技術を適用していく上でどのような点に留意すればいいのかなど、長期計画の実現に生かしていただけるように引き続き提案して参りたい」と話した。

来賓を代表して水産庁漁港漁場整備部の田中郁也部長は「新しい漁港漁場整備長期計画に即した形で新技術の開発についても具体的な課題を明示し、計画的な技術の開発と普及につなげるため、本年7月を目途に漁港漁場整備事業の推進に関する技術開発の方向を定めることとしている。このような取組を進めていくためには、貴研究会の役割は非常に大きいと考えている」と一層の協力を要請した。

令和4年度事業計画では、新長期計画に示された課題の解決に向けて、より研究の内容を深め、開発した新技術が一層活用されるよう努力するものとする。また、行政や漁業者の新たなニーズの把握に努めつつ、研究部会・専門部会相互の連携を強め、さまざまな課題に対し積極的な研究活動を推進する。

さらに、国等の新技術に関する調査事業を会員各社の協力を得ながら実施するとともに、国が進める漁港漁場施設の管理の高度化に併せ、漁港施設データ等のICT化について検討する。その他、講演会等の開催、技術マニュアル等の作成、民間技術の確認・評価などに取り組むこととしている。

総会終了後、（一財）東京水産振興会理事の長谷成人氏（元水産庁長官）が「水産政策の改革と今後の海面利用について～洋上風力発電の動向が気になっている～」と題して講演を行った。

長谷氏は、水産業をめぐる環境変化として、本格的な人口減少時代への突入、地球温暖化と水温上昇、外国漁船の周辺水域での操業活発化の三つを挙げ、水産政策と改革の方向づけと漁業法等の改正漁業法では、漁業及び漁村が有している環境の保全、海上における不審な行動の抑止等の多面的機能が将来にわたって発揮されるよう、漁業活動が健全に行われ、漁村が活性化するよう配慮することが規定されたことを紹介した。その上で、漁業・水産業は、既に地球温暖化や海水温上昇の深刻な影響を受けており、温室効果ガスの排出抑制（脱炭素）は急務とした。

改正漁業法と同時期に成立した再エネ海域利用法では、漁業は重要な産業であり、漁業との協調・共生の観点も踏まえた上で、促進区域の指定が漁業に支障を及ぼさないことが見込まれることを考慮する必要があるとされている。洋上風力発電施設の建設に当たっては、発電事業者側と漁業者双方にwin－winの関係ができる漁業協調型の取組であるべきと主張した。また、漁業影響調査の重要性について述べ、調査実施の指針について示した。

漁業への支障があり受入れを拒否することも一つの選択としつつ、地域の漁業業振興に資するために洋上風力発電との共生を選ぶ漁業者の決断を支える様々な漁業振興策のアイデアが欲しいところであり、着底式の基礎部を活かし、それと連続した魚礁づくりは最もわかりやすい振興策であると紹介した。

就任挨拶

水産庁 漁港漁場整備部長　田中　郁也

全国漁港漁場協会の会員の皆様におかれましては、日頃より漁港漁場整備と地域の活性化に多大なご尽力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

令和4年6月28日付異動により、漁港漁場整備部長に就任いたしました。全国の漁港漁場整備が着実に進み、水産業の振興と地域の活性化が図られるよう、皆様方との対話と意思疎通をしっかりとはかりながら、取組を進めてまいります。どうぞよろしくお願いします。

漁港漁場整備のこれからの課題と対応を具体的に示した「漁港漁場整備長期計画」が本年3月25日に閣議決定されました。長期計画の策定にあたっては、皆様には、計画策定を推し進めるための全国集会を開催していただき、政策のご提言をいただきました。また、都道府県等の単位でも、地域の方々との意見交換を行う機会を作っていただきました。コロナ禍で集うことが難しい状況下にあってご負担も大きかったと思いますが、策定作業を進めるための大きな推進力になりました。貴協会のご尽力に対し、改めて御礼申し上げます。

長期計画をとりまとめるにあたり、私たちが重きを置いた点を3つあげます。

1点目は、地域の声、現場ニーズを反映することです。先に述べました全国集会、ブロック別・都道府県単位での意見交換において頂戴した貴重なご意見を踏まえ、具体的な施策を計画に盛り込みました。また、水産業や漁業地域を巡る厳しい状況に対して、地域活性化の旗印として「海業の振興」を水産基本計画とともに新たに位置付け、漁港を核に付加価値を生み出す事業を展開し、所得と雇用の創出を目指します。

2点目は、変化に対応することです。海洋環境の変化や自然災害の頻発化・激甚化などにより、水産業や地域の暮らしに大きな影響が生じています。これからの基盤整備は、これまで通りではなく、様々な変化を踏まえ、将来を見通した上で進める必要があると考えています。また、脱炭素・グリーン化、デジタル化など社会全体の課題に対し、水産業の分野においても取組を進めていく必要があります。

3点目は、支援策の充実と連携の強化です。水産業や地域が抱える多様な課題に対し、現状の支援策では十分に対応できないところもあると考えました。4年度予算では支援策の充実を図りましたが、これからもその努力は続けてまいります。また、環境保全、災害対応、海業振興、輸出促進などの課題に対しては、関係機関との連携を強化していきます。今回の計画には、「漁港・漁場・漁村を支える人材の育成と推進体制の強化」についても定めています。私たちは、皆様とともに地域の課題に向き合い、一緒に考え、汗をともにかく役割を果たしていきたいと思います。

これより、令和5年度概算要求に向けた動きが本格化します。新たな長期計画の具現化を図るため、あらゆる機会を通じて予算の確保に全力で取り組んでまいりますので、引き続きご支援を頂きますようお願い申し上げます。

結びに、貴協会の益々のご発展をお祈り申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

令和3年度 水産白書を公表

政府は「令和3年度水産白書」を6月3日公表した。第1部では水産の動向について記載し、「新たな水産基本計画」「新型コロナウイルス感染症による水産業への影響と対応」をテーマに特集した。第2部は令和3年度の水産施策と講じた施策について記載している。

第1部の第5章は「安全で活力ある漁村づくり」と題し、今年3月に策定された新たな漁港漁場整備長期計画や漁村の果たす役割について紹介した。

新長期計画については、3つの重点課題①産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化②海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保③「海業（うみぎょう）」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上～を設定し、令和4～8年度の漁港漁場整備事業の実施の目標、その達成に必要な事業量を明記していることを説明。

重点課題に加えて、社会情勢の変化への対応として▽グリーン化の推進▽デジタル社会の形成▽生活スタイルの変化への対応～を漁港・漁場の整備に共通する課題として取り組むことも記述している。

続いて漁村の現状と役割について触れたうえで、「安心して暮らせる安全な漁村づくり」「漁村の活性化」について記載した。

コラムでは「海底火山福徳岡ノ場の噴火に伴う軽石等の漂流・漂着」と「海業」を取り上げた。

軽石については、漁港への流入防止を図るため多くの漁港管理者によりオイルフェンスの設置や準備が行われたことを紹介。海業については新たな水産基本計画と漁港漁場整備長期計画に盛り込まれたことを挙げ、海業の定義を説明した。

漁港友の会

第48回定期総会を開催

和やかに記念撮影に収まる出席者

漁港友の会（橋本牧代表世話人）は、7月4日（月）KKR東京において来賓の田中郁也水産庁漁港漁場整備部長、横山純計画課長、中村隆整備課長、廣山久志防災漁村課長、中村克彦水産施設災害対策室長、矢花渉史前漁港漁場整備部長他50名の出席を得て第48回定期総会を、3年ぶりに開催した（過去2回は中止）。会議は松永務世話人の司会で進められ、先ず、昨年の総会以降に亡くなられた加納久登氏、八木実氏、斎藤政信氏、吉田威氏、福屋正嗣氏、坂井溢郎氏、並びに未開催の2年間に亡くなられた木村茂雄氏、桑原雅子氏、寺田杜郎氏、梅川武氏、高橋俊吉氏、小林潤氏、川口毅氏に対して黙祷を捧げた。続いて、橋本代表世話人から挨拶が行われ、田中部長から本年3月に閣議決定された新たな「漁港漁場整備長期計画」や最近の水産業の動きについての説明を兼ねた来賓祝辞があった。また、新たに入会された三上信雄氏、佐藤昭人氏、仲間雄一氏、依岡隆氏の紹介等が行われた。

その後、橋本代表世話人が議長を務めて議事に入り、令和3年度収支決算、4年度収支予算案及び世話人の交代等について原案どおり承認した。

総会終了後には、恒例の記念撮影を行なった後、懇親会に移り、多くの漁港漁場関係者が3年ぶりに旧交を暖めつつ和やかな懇談が続けられた。

なお、来年は7月3日（月）に開催の予定。

水産庁漁港漁場整備部 新幹部

就任挨拶　計画課長　横山 純

6月28日付けで計画課長に就任しました。日頃より、漁港・漁場・漁村の整備の推進に、ご理解ご協力を賜り心より感謝申し上げます。私のこれまでの水産庁勤務経験としては計画課勤務が多かったところですが、直近は整備課長その前は北海道開発局水産課長と、気がつけば計画課勤務はおよそ10年ぶりとなります。前回の計画課勤務は、東日本大震災からの復興を目指していた時期にあって水産公共予算を担当する事業班長をさせて頂きました。実はこの時も、前任者は今回と同じく田中漁港漁場整備部長であり、この時は全国が大震災で混乱していた時期に震災復興にむけて様々な整備課長その前は北海道道筋をつけて頂いたことを記憶しています。今回の異動では、昨年度末に新たな漁港漁場整備長期計画を策定しましたが、その主な取組として、漁港整備にあっては圏域計画に基づく漁港の再編・集約化を進めつつ拠点機能の充実・強化を図ること、漁場にあっては海域環境変化を踏まえた水産環境整備の推進に努めること、また漁村にあっては海業（うみぎょう）振興による漁村の魅力と所得の向上に取り組むことなど、それらに加えて時代の要請を踏まえて、グリーン化の推進やデジタル社会の形成、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等に伴う生活スタイルの変化への対応といった課題への対応など規定されており、計画課長を引き継ぐにあたって、しっかりとした道筋を示して頂いたと感じております。

新型コロナウイルス感染症の影響からこれまであまり現地にも行くことができませんでしたが、これからは感染症対策に努めつつこれまで知り合った多くの漁港・漁場・漁村関係の皆様のご意見を大切に拝聴しながら施策に反映していく所存ですので、今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

就任挨拶　整備課長　中村 隆

6月28日付けの異動で、整備課長を拝命しました中村です。

日頃より漁港・漁場・漁村の整備の推進にご理解ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

前職の防災漁村課水産施設災害対策室長では、地震や津波、気候変動により激甚化・頻発化する台風や豪雨、さらには噴火に伴う軽石等の自然災害に対して、初動の対応、早期の復旧・復興、災害協定の締結等に携わらせていただきました。

今回担当させていただく整備課は、私自身、旧建設課時代を含めて三度目となりますが、時代の変化とともに業務が多様化・複雑化し、所掌する課題が広範囲になってきたと感じています。

現在の業務としては、施工積算基準の策定、建設業における働き方改革やICT技術導入をはじめとし、フロンティア漁場整備事業や沖縄県糸満漁港の漁業取締船対応岸壁といった国直轄事業の実施、インフラ長寿命化対策の計画的推進、高水温や食害による磯焼けへの対応、ブルーカーボンに関する取り組み、サンゴ増殖技術の開発など様々であり、いずれもとても重要なテーマだと考えています。

また、近年、地方公共団体において技術者が不足しており、特に市町村では技術者がいない中で事業実施や災害対応に追われている部署も多いとお聞きしています。整備課では、このような状況を踏まえ、どのような質問も一元的に受ける「よろず相談窓口」を設置しており、引き続き地元の皆様に寄り添った行政に心掛けていきたいと思います。そして、様々な課題に対し施策を講じるにあたっては、漁協等漁業者の方々、民間団体、研究機関等皆様方の忌憚のないご意見を伺うとともに、産官学が一体となって未来の漁港漁場整備事業を築いていけたらと考えています。

最後になりますが、希望の持てる水産業・漁村の実現に向け、一生懸命取り組んでまいりたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。

就任挨拶　防災漁村課水産施設災害対策室長　中村 克彦

6月28日付けで水産庁防災漁村課水産施設災害対策室長を拝命いたしました中村です。どうぞよろしくお願いいたします。

水産施設災害対策室での業務は2回目となります。前回は、平成19年、20年度に災害調整班長として勤務し、主に予算関係や制度面の検討などを担当しました。当時は、能登半島地震や寄り回り波と呼ばれる冬期風浪などの大きな災害があり、災害対応の重要性を実感しましたが、今回は水産施設災害対策室全体を取りまとめる役職となり、身の引き締まる思いです。

近年は、気候変動等により災害が頻発化・激甚化しているほか、南海トラフ地震等の大規模地震・津波の発生確率が高まっています。このような状況の中で、災害復旧の重要性は以前にも増して高まっていると考えています。特に、災害後の初動対応は、災害による影響を最小限に抑え、地域の方々に安心して頂くためにも重要と考えます。仮に初動対応が遅れると、それだけ地域全体の復旧・復興が遅れ、地域の水産業にも大きな影響が及び、場合によっては、その影響が将来的に継続する恐れもあります。

このため、漁港での応急対応を速やかに実施できるよう、漁港管理者と建設関係団体との災害協定の締結を促進するとともに、地方公共団体における技術者不足を補いつつ速やかに現状把握、復旧方針を検討できるよう、MAFF-SATを派遣するなど、災害直後の対応力強化に向けた取組を着実に推進・実行していきたいと考えております。並行して、大規模災害への備えについても、引き続き、水産庁内や関係機関と連携して、取り組んでいきたいと考えています。

最後に、東日本大震災の復旧・復興過程においては、色々な立場の方々と一緒に業務を行い、また、議論・調整した経験があります。被災された方々や国、地方公共団体の方々の思い・考えを知り、災害復旧・復興の難しさを身に染みて感じました。この経験を忘れず、今後発生する様々な災害に対応していきたいと思います。

引き続き、皆様方にご指導、ご鞭撻頂ければ幸甚です。よろしくお願いいたします。

島根県漁港漁場協会　通常総会を開催

島根県漁港漁場協会（会長・久保田章市浜田市長）は、6月23日、松江市の「サンラポーむらくも」において、令和4年度通常総会を開催した。久保田会長が「昨年11月に開催された全国集会に参加し、新たな長期計画策定と漁港・漁場・漁村・海岸整備の促進に関する提言を決議した。これに基づき地元選出の国会議員に対し要望活動を実施するなどした結果、要望が盛り込まれた計画が策定され、令和4年度水産基盤整備予算も必要な額が確保できた」と挨拶の後、来賓の西村秀樹島根県農林水産部長（代理・安木茂農林水産部次長）が挨拶した。

島根県協会の総会の様子

船越洋平氏（松江市水産振興課長）を議長に選出して議事に入り、令和3年度事業報告及び収支決算、函館市で開催される第71回全国漁港漁場大会への参加や、漁港漁場漁村担当職員研修会の開催などの令和4年度事業計画及び収支予算、役員の補欠選任を提案どおり承認した。

役員の補欠選任は監事の退任に伴うもので、新たな監事に三代均出雲市農林水産部長が選任された。

全国漁港漁場協会からは森田正博常務理事が出席し、橋本牧会長の挨拶を代読した。

長崎県漁港漁場協会　定時総会を開催

長崎県漁港漁場協会（一社）（会長・比田勝尚喜対馬市長）は、6月23日13時30分から長崎市の「ホテルセントヒル長崎」において令和4年度定時総会を開催した。

今年度は、コロナウイルス感染症予防対策のため、来賓者の招待縮減により行われた。

比田勝会長の挨拶の後、大石賢吾長崎県知事（代理・川口和宏長崎県水産部長）、坂本智徳長崎県議会議長、矢花渉史水産庁漁港漁場整備部長、橋本牧（公社）全国漁港漁場協会会長が来賓祝辞を述べた。

議事に入り、令和3年度決算等を原案通り承認するとともに、令和3年度事業報告、公益目的支出計画実施完了報告、令和4年度事業計画及び収支予算が報告された。

また、任期満了に伴う理事及び監事の選任が行われ、新たに理事9名、監事2名が選任された。

その後開催された第115回理事会において、比田勝尚喜理事（対馬市長）が会長に選任された。

総会終了後、矢花渉史漁港漁場整備部長による「新漁港漁場整備長期計画」の説明会が行われ、盛会のうちに終了した。

長崎県協会の総会の様子

三重県漁港漁場協会　通常総会を開催

三重県漁港漁場協会（会長・前葉泰幸津市長）は、6月27日午前11時から津市の「三重県勤労者福祉会館」において、第72回通常総会を開催した。

冒頭、前葉会長の開会の挨拶に続き、来賓の橋本牧（公社）全国漁港漁場協会会長が挨拶し、「今年の3月に閣議決定された新しい漁港漁場整備長期計画は、浜の様々な課題を解決すべく新たな施策が盛り込まれた素晴らしいものとなっており大変うれしく思っている。長期計画に位置づけられている課題と施策は、どれをとっても重要である。今後、県協会の皆様とも連携し、施策実現のための広報・普及活動や事業の実現に必要な予算の獲得活動などについて、積極的に取り組んで参りたい」と述べた。

続いて議事に入り、令和3年度事業報告及び収支決算、令和4年度事業計画、令和4年度収支予算等について審議した。

また、昨年11月に南伊勢町の小山町長が退任されたことに伴い空席となっていた副会長について、5月23日に開催された理事会において互選により南伊勢町の上村久仁町長に就任していただいたとの報告があった。

水産庁 人事異動

（六月二十八日付）

漁港漁場整備部長（計画課長）田中郁也▽計画課長（整備課長）横山純▽整備課長（防災漁村課・水産施設災害対策室長）中村隆▽防災漁村課水産施設災害対策室長（整備課上席漁港漁場専門官・漁政部漁政課付）中村克彦▽整備課上席漁港漁場専門官（整備課海外水産土木専門官）宮地健司▽整備課長補佐・機能高度化班担当・防災漁村課災害査定官・漁政部漁政課付（整備課長補佐・機能高度化班担当・防災漁村課災害査定官）不動雅之▽退職・株式会社農林漁業成長産業化支援機構取締役専務へ（漁港漁場整備部長）矢花渉史▽退職（復興庁岩手復興局長）山本竜太郎

（六月三十日付）

退職・国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所寒地水圏研究グループ水産土木チーム上席研究員へ（計画課長補佐・総括班担当）森健二

（七月一日付）

計画課長補佐・総括班担当（整備課漁港漁場専門官・計画課付）西﨑孝之▽計画課付・研究休職・（一財）漁港漁場漁村総合研究技術審議役へ（国土交通省北海道開発局農業水産部水産課長）渡邊浩二▽整備課付・国土交通省出向・北海道開発局農業水産部水産課へ（国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所寒地水圏研究グループ水産土木チーム上席研究員）的野博行▽防災漁村課長補佐・推進班担当（株式会社日本政策金融公庫企画部業務職）蓬田正道▽経済産業省出向・大臣官房福島復興推進グループ総合調整室へ・資源エネルギー庁電力・ガス事業部原子力政策課原子力発電所事故収束対応室課長補佐（防災漁村課長補佐・推進班担当）宮澤軌一郎

（公社）全国漁港漁場協会人事異動

（六月三十日付）

退職（業務部長）福田亮▽退職（主幹）金剛いづみ

（七月一日付）

主事　金澤洋子